

# 医療

## 早期発見・早期治療のススメ

シリーズ

歯科治療最前線

### 虫歯・歯周病予防で歯髄を守る

#### 歯の根管治療

歯の神経にあたる歯髄は歯の構成上、重要な役割を果たしています。歯の活性化のみならず、歯に加わる刺激に対して痛みとして脳に伝達したりします。歯髄やその周囲が細菌によって犯されると、感染部を除去する必要があります。今回は「歯の根管治療」についてです。

#### 神経を取る＝抜髄

歯の治療で「神経をとってしまった」とよく聞いたことはありませんか。「神経をとる」ことを歯科では「歯髄（神経）をとる」、つまり「抜髄（ばつずい）」と呼びます。歯髄は歯の構成上、中枢部分に位置し、非常に重要な役割を果たしています。例えば歯髄は歯の先の部分で血管につながっており、象牙質の恒常性を維持しているのです。

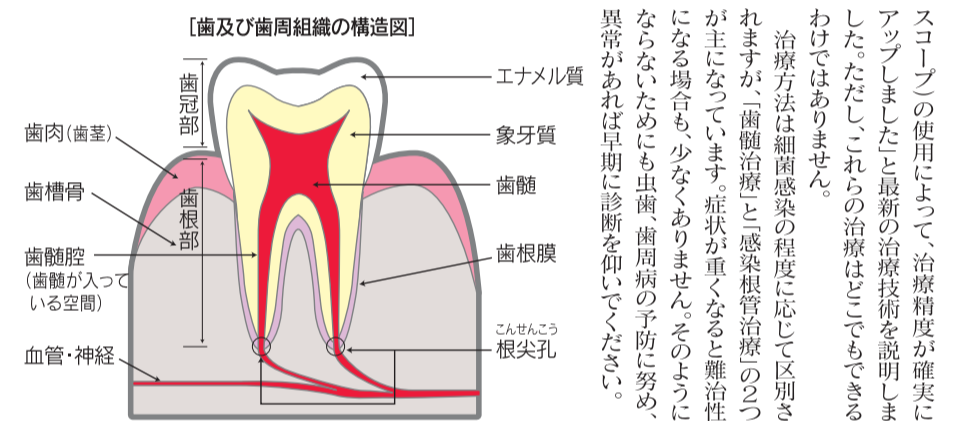
歯髄は事故や外傷などを除くと、病気になるケースは虫歯菌と歯周病菌が原因で炎症を起すことが大半を占めます。また、炎症が進めば歯髄のみならず、根尖歯周組織まで広がりますので、十分注意が必要です。

#### 根管治療は難治療の二つ

歯科ではこの歯髄と下部の血管までつながる部分を根管（こんかん）と呼び、これに当たる治療を「歯の根管治療」といいます。「根管治療」は歯の治療では基本的な治療といわれていますが、歯髄の奥の部分や根の先の部分は正視することが難しく、治療も困難なことが多いそうです。

#### CTと顕微鏡使用で治療精度がアップ

熊本市内の歯科医に聞くと、「以前の治療はレントゲンなどで診断していましたが、今は歯科用CTで病巣や根の断面などがはっきり分り、症状がわかりやすくなりました。また、実際の治療に当たっては顕微鏡（マイクロスコープ）の使用によって、治療精度が確実にアップしました」と最新の治療技術を説明していました。ただし、これらの治療はどこでもできるわけではありません。



### 専門医からのアドバイス Q&A

#### 「歯の根管治療」



熊本インプラントセンター  
添島 英輔 副院長  
日本口腔インプラント学会 会員  
日本矯正歯科学会 会員

#### 非常に大事な歯髄の役割

最先端部は「根尖孔（こんせんこう）」といいますが、先端部は少し開いていますが、神経や血管が入り込み、上部の歯髄につながっています。

歯の治療の中で難しいとされるのが「根管治療」です。多くは虫歯や歯周病が原因とされています。そこで今回は「歯の根管治療」について、添島歯科医院（熊本市桜町）の添島英輔副院長にお話を伺いました。

#### 根管とは歯根部の歯髄腔のこと

歯の根管とは具体的に歯のどの部分を指すのですか？

歯肉（歯茎）から出ている歯の見える部分（歯冠部）と、歯の内部に歯髄（神経）が入っています。その内部に歯髄腔（神経）があります。その歯髄腔が入っている部分を根管腔といいますが、歯根部の歯髄腔のことを根管といっています。つまり空洞の中に歯髄があると思って下さい。歯の根の

歯髄は事故や外傷などを除くと、病気になるケースは虫歯菌と歯周病菌が原因で炎症を起すことが大半を占めます。また、炎症が進めば歯髄のみならず、根尖歯周組織まで広がりますので、十分注意が必要です。

#### 根管治療とは歯髄と歯髄腔の治療

歯の根管治療とは簡単にいえばどのような治療ですか？

大まかに言えば歯髄と歯髄腔の治療のことを「歯の根管治療」といいます。治療は歯髄の炎症に対しての「歯髄疾患処置」と、歯髄が死んでしまった場合や、根管壁、根尖周囲組織の感染に

治療方法は細菌感染の程度に応じて区別されますが、「歯髄治療」と「感染根管治療」の2つが主になっています。症状が重くなると難治性になる場合も、少なくありません。そのようにならないためにも虫歯、歯周病の予防に努め、異常があれば早期に診断を仰いでください。

治療方法は細菌感染の程度に応じて区別されますが、「歯髄治療」と「感染根管治療」の2つが主になっています。症状が重くなると難治性になる場合も、少なくありません。そのようにならないためにも虫歯、歯周病の予防に努め、異常があれば早期に診断を仰いでください。

対する治療を行う「感染根管処置」の大きく2つに分かれます。治療期間は歯髄を取る「抜髄（ばつずい）処置」は1、2回で終了しますが、感染根管の場合は症状がなくなるまで行いますので、数カ月にとらなければならない場合があります。

原因の多くは虫歯と歯周病

根管治療が必要となる大きな原因は何でしょうか？

ほとんど虫歯です。虫歯はC3レベル以上の時は治療が必要となるケースが多いですね。ほかに歯周病が進行すると、根尖部から感染することがあります。根管治療の予防と対策は虫歯や歯周病にからまないこと、加えて虫歯や歯周病がなくても、噛み合わせが悪いと痛みが出て、治療が必要となることもあります。

第一高校 合同庁舎 添島歯科医院 添島英輔 副院長

（社）日本口腔インプラント学会指定研修施設  
熊本インプラントセンター  
添島歯科医院  
熊本市桜町1-28-205 桜町センタービル2階  
TEL 0120-354-508  
http://www.soejima-sika.com/

# 医療 ニュース KUMAMOTO

## 4棟を建て替え、リニューアルオープン

城南病院

熊本市城南町舞原の(医)杏和会 城南病院(内野誠院長)は、リハビリ館の新築工事、ストレスケア病棟(北館)増築工事が終了し、リニューアルオープンした。今回の完成で、2009年4月から3期に分けて進めてきた施設の建て替え工事が完了した。

同病院では、新しい医療機能やアメニティーの向上を図るため、敷地(4万㎡)内に4棟の新築工事と1棟の改修工事を実施。このほど南館精神科病棟、北館(ストレスケア病棟、本館)の3棟とリハビリ館を渡り廊下でつなぎ、中庭を取り囲む形で完成した。4棟の渡り廊下を含む総延べ床面積は8508㎡、総建築費は約19億円。



▲熊本市出仲間5丁目に移転し、改称した「平成とうや病院」

## 出仲間5丁目に移転し院名を変更

平成とうや病院

同市出仲間5丁目に移転、院名を「平成とうや病院」に変更した。

場所は国道57号(通称東バイパス)沿い、県道熊本浜線との交差点北西側の商業施設「ユーパラ」跡。敷地(面積4740㎡)と鉄骨造り4階建ての建物(建築面積3132㎡、延べ床面積1万1458㎡)を賃借して入居した。1、2階は駐車場、3階は受付、外来、一般病棟、4階はリハビリテーションスペース、回復期リハビリ病棟。病床数は一般病棟が50床、回復期リハビリ病棟が55床の計105床。診療科目は内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、リハビリテーション科。

水前寺5丁目、寺本仁郎院長を運営する(医)清和会(同地、東野裕司理事長)のグループ施設「齊藤病院(森孝志院長)」はこのほど、同市中央街から

## 段山本町に耳鼻咽喉科クリニック

元国立病院勤務の緒方医師

元国立病院機構熊本医療センター勤務の緒方憲久医師はこのほど、熊本市段山本町に耳鼻咽喉科(いんこう)クリニックを開院した。

院名は「かみくまもと耳鼻咽喉科」。場所は熊本市電沿い、高木石材本社展示場南西側、熊本缶詰跡地北側。敷地面積は600㎡。建物は2階建てで延べ床面積は2300㎡。フロア構成は待合室、診察室、処置室、点滴室、聴力検査室、レントゲン室など。診療科目は耳鼻咽喉科とアレルギー科。スタッフは緒方院長、看護師2人、事務員3人。診療受付時間は午前9時から午後零時半、午後3



▲熊本市段山本町の市電通り沿いに開院

## 64列マルチスライスCTを導入

表参道吉田病院

(医)起生会表参道吉田病院(熊本市北千反畑町、吉田憲史理事長)は、院内に64列マルチスライスCTを導入した。

導入したのは東芝製の「Aquilion」。同設備は全身および肺・脳・心臓など各部位をCT装置で撮影しコンピュータ解析。

その後、各部位の形や状況を画像化し、病変の有無を調べるもの。多数の精密な断面画像が得られ、従来のCTと比べ撮影時間が大幅に短縮されるのが特徴。

同院は「体内を3次元的に観察でき、各種疾患の早期発見に効果的です」と話している。